

---

# プロジェクト実行委員会

takumi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

プロジェクト実行委員会

### 【Nコード】

N3455S

### 【作者名】

takumi

### 【あらすじ】

蘭汰はこの物語の主人公（中学一年）。蘭汰とその仲間たちは、実験大好き人間。これまでの実験は数知れず、とても斬新で時には天才的な発想をするのだが、いつも予想外の展開になり、とんでもない問題を引き起こす。この物語は蘭汰たちがこれまで考えて実行してきた、汗と笑いと涙？の結晶と蘭汰たちの成長を見守る物語である。

## 入学式

(よし、今日から中学生だ。ママチャリも買ったし、通学は問題ないな。じゃいつてきまーす) 蘭汰は今日から中学生、新しい学ランに袖を通し、弁当を入れた鞆をママチャリの籠に入れた。今日は入学式があり、ワクワクする気持ちを抑えチャリに跨った。学校は蘭汰の家からチャリで20分。家の近くには山があり、峠道をチャリで下って通学する。蘭汰は下る道が大好きなので、通学も一つの楽しみでもあった。そして蘭汰はハンドルを握り、ペダルに足を乗つけて、学校に向かった。

四月の初め、桜が飛び舞う中、蘭汰は下り坂を攻めて学校に向かっている。(イヤッファー!!俺は風と一体化している、だがもつとスピードがほしい!!よし、ペダルを全開に漕ごう!!) そう言つて、さらにスピードが上がる。普通は恐怖があるのだが、蘭汰はこの道を小学生の頃から使っていて、スピードには慣れてるのだ。そして、この峠で一番速いのは俺だと、蘭汰自身は語っている。これまで壊したチャリは数え切れないほど潰したらしい。その中でも有名な話は、蘭汰とその仲間たちが峠を下っている時、蘭汰は突然(ブレーキは前しか使わない)と言つて、加速し、カーブの手前で前ブレーキをかけた時、後輪が浮き前輪だけで、カーブを抜けたという話がある。本人は曰く(全てがスローに見えましたね。下るときに前輪のブレーキをかけて後輪を上げる、これはジャックナイフという技なのですが、最高速でのチャレンジは初めてでしたので、緊張しましたね。)このインタビューは地元のローカル新聞の片隅に載ってたらしい。そんな事を書いてる内に蘭汰は学校に到着していた。そしてなんだかんだして……

ラスは1-Dに決まった。

入学式は終わり、ク

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3455s/>

---

プロジェクト実行委員会

2011年10月8日23時34分発行